



校訓
質実剛健
堅忍持久
勤労愛好

○令和7年4月10日 入学式を終えて ～入学式 式辞～要約文掲載

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校の職員、在校生一同、皆さんの入学を心から祝福し、歓迎いたします。

本校は「質実剛健 堅忍持久 勤労愛好」の校訓を掲げ、「商業マネジメント科」「情報ソリューション科」の二つの学科をもつ、誇りとやる気に溢れるとても勢いのある学び舎です。



11 HR

また、「栄光は君に 挑戦せよ!延商生 やるなら トコトン!」というスローガンを掲げ、挑戦し続ける姿勢が、自分の未来を切り拓いていくという熱いエールを皆さんに、送っています。

さて、世界の動きに視点を移してみましょう。ロシア・ウクライナ戦争の長期化だけでなく、武力紛争の拡大、自然災害の激化や関税引き上げによる貿易摩擦など、世界経済は様々な課題が絡み合う「不確実な時代」と言えます。さらに、これらの変化は、私たちの生活に直接影響を与えています。物価の上昇、あらゆる費用(コスト)の高騰、賃金の停滞など、これらは決して「大人だけの問題」ではなく、みなさんの未来にも深く関わってきます。私たちは、この社会の動きから何を学び、どう生きるべきでしょうか。



12 HR

さて、世界の動きに視点を移してみましょう。ロシア・ウクライナ戦争の長期化だけでなく、武力紛争の拡大、自然災害の激化や関税引き上げによる貿易摩擦など、世界経済は様々な課題が絡み合う「不確実な時代」と言えます。さらに、これらの変化は、私たちの生活に直接影響を与えています。物価の上昇、あらゆる費用(コスト)の高騰、賃金の停滞など、これらは決して「大人だけの問題」ではなく、みなさんの未来にも深く関わってきます。私たちは、この社会の動きから何を学び、どう生きるべきでしょうか。

みなさんは社会を構成する一員として、社会のさまざまな出来事から目をそらすことなく、「自ら考え、学び、行動する」ことが求められています。



13 HR

さらに、2022年の民法の改正により、成人年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これにより、18歳から親の同意無しで、自分の判断で契約できるようになったり、「選挙権」を持ち、自分の意思で政治に関わったりできるようになりました。



14 HR

しかし、このいくつか付与される権利は、「正しい知識」と「冷静な判断力」を必要とされ、判断を間違えるとトラブルに巻き込まれ、大きな代償を払うことになる恐れがあります。

このような点からも、みなさんは、常に主体的に深く学び、適切な判断力を身に付ける必要があることから、本校は今年度「探究力を高めるキャリア教育」を推進してまいります。

その中で、皆さんに身に付けて欲しい三つの力があります。一つが「探究する力」です。これは目の前の課題に

対し、「なぜ?」「どうして?」と問い続け、自ら答えを見つけ出す力であり、判断する原動力になります。二つ目が「挑戦する力」であり、失敗を恐れず、新しいことに果敢に挑む力が未来の選択の幅

を広げます。

三つ目が「やり抜く力 (GRIT)」であり、目標に向かって、一直線に進み、最後までやり遂げる情熱と忍耐力です。学習や部活動などを続けているとすぐに効果が出なく、やがて苦しくなる瞬間が訪れます。その時、粘り強く努力を重ねることで、初めて大きな成長を遂げることができます。新入生の皆さん、これからの 3 年間は、皆さんがどんな未来をつくるかを決める大切な時間です。是非「探究する力」「挑戦する力」「やり抜く力」を意識しながら、自分の可能性を広げてください。

また、高等学校は、与えられものだけを勉強したり、安易な進路選択をしたりするところではありません。自らの意思で学び、自ら考え、自分の人生を切り拓く力を養う場です。どうか、この延岡商業高校で、同じく夢に向かって果敢に努力する友と出会い、そして時には厳しく、また時には温かく夢へと導いてくれる師を見つけ、夢実現に向けて、これから力強く一歩ずつ歩いていってください。

○「15 歳の Messenger」 浜崎満治氏講演 (ヘルメット着用 100%を目指して)

この度、4 月 16 日 (水) に交通安全教室の一環として、大分県在住の浜崎満治氏をお迎えして講演していただきました。この講演は、ヘルメット着用の意識を高めることを目的として開催しました。



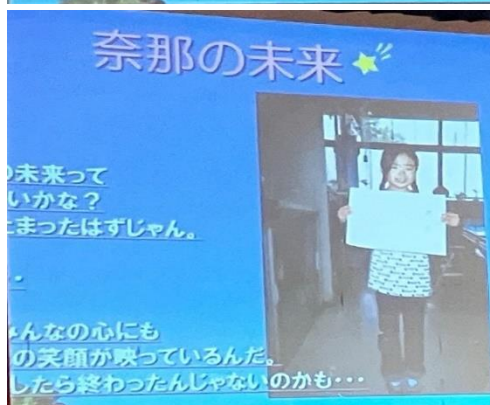
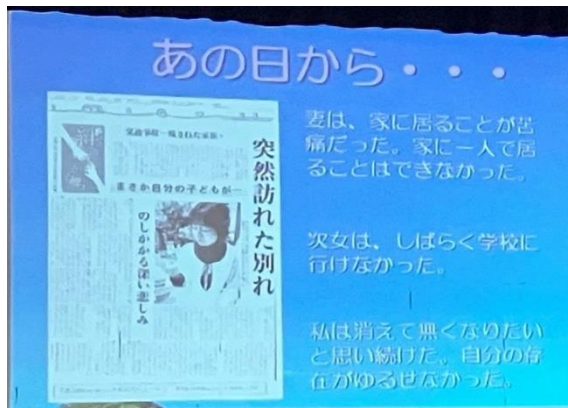
浜崎さんは、平成 19 年当時高校 1 年生 (15 歳) の長女が帰宅中に、脇見運転をしていた軽トラックにはねられ、頭部損傷を負い死亡した交通事故遺族者です。

また、浜崎さんは、ご自身の経験から、悲惨な死亡事故を防ぐために、被害者遺族の心情や命の大切さ、ヘルメット着用の重要性を訴えるなどの活動を全国各地の自治体、中学・高等学校、警察、関係団体・企業等で行ってられます。

浜崎さんは、16 年間この講演活動を続けてこられました。時には、当時の病室、霊安室、さらに葬儀の際の思いがフラッシュバックして心が壊れてしまうこともあったようです。浜崎さんの講演の中で

印象に残ったのが、「言葉は毛布であり、言葉はナイフである。」という言葉でした。検察官が何気に故意と過失の説明の中で「あなたもうっかりするでしょう?」と言われ、娘は命を奪われ、法に関わる職種の方からの言葉はかなり冷たく感じました。また、悲しみがどんどん深くなっていく中で「早く元気に」「早く立ち直って」という言葉もギャップを感じていました。しかし、ある時、同じような境遇のお母さんに「背負っているのは、悲しみじゃなく、それだけ大きな愛なんだよ」という言葉をいただき、その言葉に助けられたそうです。背

負っているものが愛ならば、一生、背負って良いのだと思い講演活動を続けてこられたそうです。娘と一緒に生きることを決意し、愛を背負う覚悟をしたものの、なかなか思い通りにいかないことばかりだと浜崎さんは語られました。今もなお自転車事故で亡くなる子どもたちがいる。当然私たちが加害者にならない努力をすることは絶対に必要です。しかし、ヘルメットを着用して守れる命があるなら着用して欲しいとも。ヘルメットの着用率は、全国平均 17% で都道府県別にみると 1 位愛媛 69.3%、2 位大分 48.3%、宮崎県は、8.1% とかなり低い状況です。だから、「被らなくてもいい?」とあなたは考えますか。一日も早くヘルメット着用 100% になる日がくることを願わずにはられません。



nanairo.ikidane.com

ホームページをご覧ください。